

# 田水郷通信

## ◆ Topics

- 地域ニーズを施策に 地域懇談会開催
- 田んぼダム普及・拡大に向けた広報活動が広報大賞を受賞！
- 田んぼダム全県拡大へ コンソーシアム総会開催
- 田水郷コラム「田んぼの大ききヒストリー」





## 地域ニーズを施策に 地域懇談会開催

令和4年5月25日（水）から6月7日（火）にかけて、現場の状況や地域ニーズ等を把握し今後の施策展開に生かすことを目的として、県内の7管内(登米・大河原・大崎・栗原・気仙沼・仙台・石巻)において「令和4年度みやぎ農業農村整備地域懇談会」を開催しました。懇談会には、市町村、土地改良区、JA、土地改良事業団体連合会、みやぎ農業振興公社の代表者の皆様にご参加いただき、意見交換を実施しました。

今年度は、4月に栗原市で発生した農業用ため池での水難事故を背景に、農業用ため池の安全対策について各管内でご意見をいただいたほか、農地整備事業の予算確保及び計画的な事業推進、老朽化した土地改良施設の更新、多面的機能支払交付金の制度要件緩和等の話題については、複数の管内でご要望を頂戴しました。

ご意見・ご要望いただいた内容を可能な限り施策展開に反映させ、米価下落や農業者の高齢化といった厳しい状況の中にあっても、宮城の田・水・郷が次世代へ継承されるよう農業農村整備事業を計画的に推進していきます。



R4.6.1北部NN 開催状況



R4.6.1大河原NN 開催状況

## 田んぼダム普及・拡大に向けた広報活動が広報大賞を受賞！

県と大崎市が協力し実施した、田んぼダムの普及・拡大に向けた広報活動が、令和3年度農業農村整備事業広報大賞の最高賞である「広報大賞」を受賞しました。

「広報大賞」は全国農村振興技術連盟が主催し、農業農村整備事業に係る広報活動が特に優れていると認められる団体を表彰するもので、31回目となる今年度は、応募総数30団体の中から広報大賞2団体、優秀賞8団体等が表彰されました。

今回の広報活動では、平成27年関東・東北豪雨や令和元年東日本台風で浸水被害のあった大崎市の小中学校における出前講座のほか、中・高校生への現地見学会の開催や、田んぼダムの模型の製作及び実験動画の公開などに取り組み、田んぼダムの取組への理解向上を図りました。

なお、出前講座や実験動画については複数の報道機関で取り上げられており、田んぼダムの認知度の向上に寄与しました。今年度も引き続き、全県への田んぼダムの普及に向け、広報活動を実施していきます。



表彰を受ける林農村振興課長



# 田んぼダム全県拡大へ コンソーシアム総会開催

田んぼの“雨水を溜める力”を最大限活用して洪水被害を軽減する「田んぼダム」の普及に取り組む「宮城県田んぼダム実証コンソーシアム」の総会を、令和4年6月10日（金）パレットおおさきにて開催しました。

県と大崎地域1市4町が令和3年度の活動を報告し、本年度は県全域に取組を拡大する方針を確認しました。

田んぼダムを実施した農業者組織からの報告では、「災害に対する意識向上につながった」との効果とともに「稲わらを収集できなくなる畜産農家との話し合いが必要」といった意見が出されました。



構成員は大崎管内の市町、農業者・関係団体、県

## ① 学校教育と連携した広報活動 大崎市立古川第五小学校 田んぼダム出前講座 (R3.11)



世界農業遺産大崎耕土の説明・田んぼダムの説明  
① だと思っア？  
縦横実施の様子



学校教育との連携ワーキンググループの活動報告（宮城県）

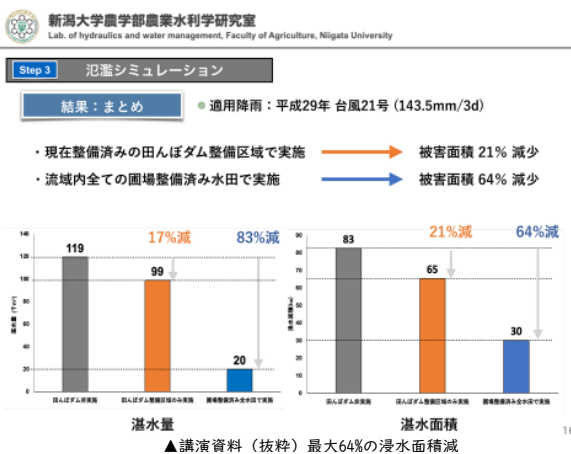


昨年度田んぼダムに取り組んだ農業者組織による感想の発表



新潟大学 宮津助教授

講演：大崎市「千刈江地区」での田んぼダム効果検証結果について

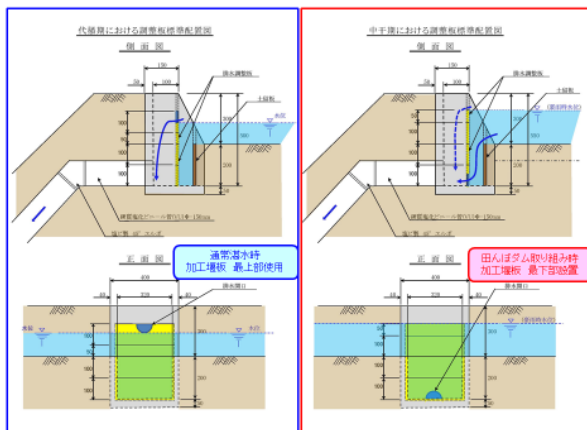


続くシンポジウムでは宮津新潟大学助教授から大崎市千刈江地区における氾濫シミュレーション結果が報告され、最大で浸水想定面積が64%減少するとの試算を示し「非常に大きな効果がある」としつつ、「空振りに終わっても取組を続けられるソフト面の対策が必要」との指摘がありました。



山形県因幡堰土地改良区 佐藤氏

講演：先進地事例発表 地域を守る「いなば」の取組



また、先進地事例発表として、因幡堰土地改良区の佐藤氏より、田んぼダム実施率80%を超える「いなばエコフィールド協議会」の取組について発表があり、多面的機能支払の加算措置等を活用した、地域のイニシアティブ醸成の手法が紹介されました。



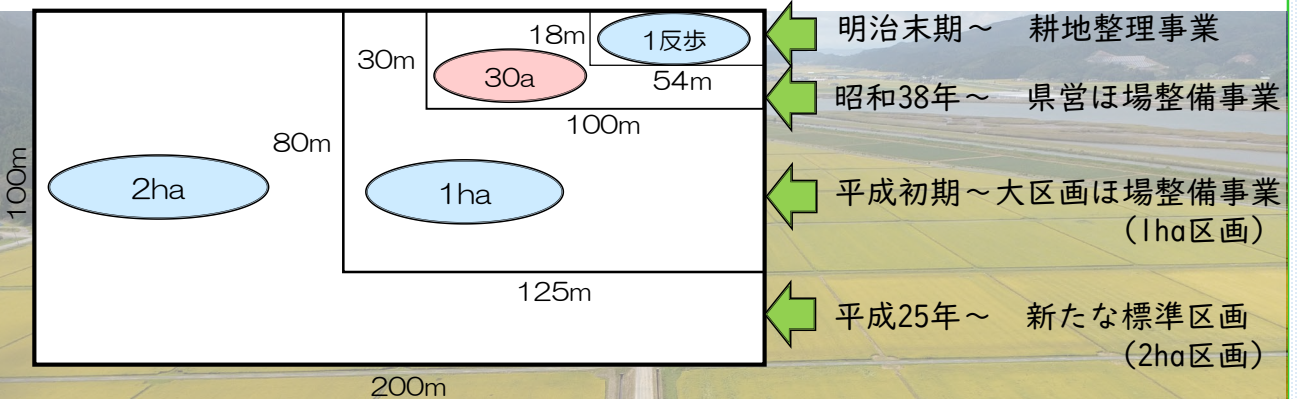
# 田んぼの大きさの歴史



みなさんは、田んぼの大きさがどれくらいかご存知ですか？本県では、時代の移り変わりとともに田んぼの整備が繰り返され、そのたびに段々と大きくなってきました。

牛や馬の力を利用して田んぼを耕す“畜力耕”<sup>ちくりよくこう</sup>が普及した明治時代の末期では、一枚の田んぼの標準の大きさは約1,000㎡（54m×18m）でしたが、現在では10,000～20,000㎡の標準区画が導入されており、実に10～20倍の大きさになっています。

今回は、本県の田んぼの大きさがどのように変化してきたか、その背景とともにご紹介します。



## ・明治末期～ 10a (1,000㎡) 区画への整理 (54m×18m)

明治時代末期は、**度重なる冷害や凶作**への対策及び災害困窮者救済事業として、耕地整理事業が盛んに行われました。区画は用排水分離の鴻巣（こうのす）式が採用されました。

## ・昭和38年～ 30a (3,000㎡) 標準区画の導入 (100m×30m)

1949年（昭和24年）の土地改良法の制定により、ほ場整備事業が創設され、本県では柴田地区において県内初となる県営ほ場整備が行われました。**大型機械化営農**に適する100m×30mの標準区画が導入されました。

## ・平成初期～ 1ha (10,000㎡) 標準区画の導入 (125m×80m)

担い手への**農地利用集積**を目的として、50a～1haを標準区画とする大区画ほ場整備が行われました。美里町の南八丁地区（旧南郷町，S61～H2）で本県最初の1ha区画が導入されました。

## ・平成25年～ 新たな標準区画 (2ha区画) の導入 (200m×100m)

労働生産性（管理作業，育苗省力化）を高め、**乾田直播栽培**，**アグリテック農業への移行**も視野に入れた標準区画2haが導入されました。また、東日本大震災からの創造的復興の取組の一環として、岩沼地区において6haの巨大区画が試験的に整備されました。

## ～宮城県農業農村整備関係部所一覧～

県庁農政部	県出先機関
農山漁村なりわい課	大河原地方振興事務所 農業農村整備部 0224-53-3111
農山漁村調整班，交流推進班	仙台地方振興事務所 農業農村整備部 022-275-9111
中山間振興班，6次産業化支援班	北部地方振興事務所 農業農村整備部 0229-91-0701
農村振興課	北部地方振興事務所 栗原地域事務所 農業農村整備部 0228-22-2111
指導班，企画調整班，地域計画班，技術管理班，広域水利調整班，	東部地方振興事務所 農業農村整備部 0225-95-1411
農村整備課	東部地方振興事務所 登米地域事務所 農業農村整備部 0220-22-6111
事業経理班，換地・用地班，ほ場整備班	気仙沼地方振興事務所 農業農村整備部 0226-24-2121
水利施設保全班	王城寺原補償工事事務所 022-345-5175
農村防災対策室	
防災対策班，ため池対策班	

### 問い合わせ先

〒980-8570 仙台市青葉区本町3丁目8番1号

宮城県農政部農村振興課企画調整班

電話：022-211-2863 E-mail：nosonshin@pref.miyagi.lg.jp

農村振興課HP：https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosonshin/